

『PRTR大賞2006』 選考結果

主催：(社)環境情報科学センター

後援：経済産業省、環境省、(財)世界自然保護基金ジャパン、(社)日本化学会、(社)化学工学会、(社)環境科学会、(社)大気環境学会、日本環境化学会、(社)日本水環境学会、日本リスク研究学会、(株)化学工業日報社、日経エコロジー、日経BP環境経営フォーラム

PRTR大賞は、化学物質管理とリスクコミュニケーションを積極的に推進している企業や事業所を顕彰するため、環境情報科学センターが平成16年に創設した表彰制度です。第3回の開催となった今年度は、計20件の応募をいただきました。選考委員による第1次審査(書類審査)、第2次審査(ヒアリング・現地調査)、さらに会場審査員と選考委員の投票による大賞選考会を行った結果、PRTR大賞1件、PRTR優秀賞6件、PRTR奨励賞5件が決定しました。

〔PRTR大賞2006選考委員〕

委員長 安井 至 (国際連合大学)
委員 有田芳子 (主婦連合会)、織田島修 (化学工業日報社)
亀屋隆志 (横浜国立大学大学院)、北野 大 (明治大学)
神保重紀 (日経エコロジー)、中地重晴 (環境監視研究所)
福井弘道 (慶應義塾大学総合政策学部)、村田幸雄 (WWF ジャパン)

〔選考結果〕

大賞(1件)

住友化学株式会社

優秀賞(6件)

川俣精機株式会社、株式会社クレハ いわき工場、セイコーエプソン株式会社 諏訪南事業所、日産ディーゼル工業株式会社 本社・上尾工場、藤倉ゴム工業株式会社 岩槻工場、富士フイルム株式会社 富士宮工場

奨励賞(5件)

今仙電機製作所 名古屋工場、大日本インキ化学工業株式会社 埼玉工場、東陶機器株式会社 小倉第一工場、パナホーム株式会社 静岡工場、松下エコシステムズ株式会社 春日井工場



第3回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

住友化学株式会社「PRTR大賞2006」受賞理由

化学物質管理について

全社の方針に従って、各事業所で確実に化学物質管理を実施していることが確認されました。PRTR対象物質については、意欲的目標を定めて設備投資等により着実に排出量を削減するとともに、環境リスクと排出量の両面から優先的に削減対象物質を定めて重点的に対策を実施する等の取組が見られました。また、新規化学物質については、定性的なアセスメントを実施して、一定以上の影響が確認された物質については更に詳細な定量的なアセスメントを実施するという二段階評価で確実に管理されていました。特に、取り扱いのある全物質について独自に環境目標濃度を定め、モニタリングやシミュレーションのデータと比較して環境リスク評価を実施し、削減計画に反映している点は高く評価されました。

リスクコミュニケーションについて

全社の方針としてサイトレポートの発行の継続とコミュニケーションの実施を掲げ、具体的な取組内容については各サイトが地域性を考慮して判断して進めていることが確認できました。サイトにより、広報紙の配布、工場見学会の開催、自治会等との懇談会の実施、自治体モデル事業への参加、研究所立地時の説明会の開催など取組は様々ですが、本社が全事業所の取組を詳細に把握して、優れた取組を水平展開している点は高く評価されました。今後の更なる「住友化学らしい攻めのコミュニケーション」に期待します。

第3回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

川俣精機株式会社 「PRTR優秀賞」 受賞理由

化学物質管理について

東芝グループの規定を参考に、独自に「環境保全基本方針」を定めており、組織化された化学物質管理の仕組みが着実に運用されていることが高く評価されました。緊急事態の対応体制や従業員教育、化学物質情報の共有においても独自の工夫があり、化学物質管理に対する高い意識と積極的な姿勢がみられました。排出削減対策では、代替物質への切り替えだけでなく、作業工程における細やかな努力がすすめられていました。今後は、地域の環境リスク管理も視野に入れ、PRTR情報をさらに活用されることを期待します。

リスクコミュニケーションについて

福島県の指導を参考に、コミュニケーションの体制作りに努めています。まだ実績は少ないものの、積極的に地域住民とのコミュニケーションを図るために「春のレクリエーション」を企画し、これを継続する姿勢などが高く評価されました。また、情報公開についても、環境報告書を活用したり、セミナー等の場において化学物質管理状況を発信するなど、自ら社会に進んで働きかけています。今後は、地域対話の中でも化学物質のリスクに具体的に言及した内容に発展されることを期待します。

第3回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

株式会社クレハ いわき工場 「PRTR優秀賞」 受賞理由

化学物質管理について

経営者の下におかれた「RC委員会」および工場長の下におかれた「環境・安全部（RCマネジメント・レビュー）」が中心となり、レスポンスフルケアによって総合的な化学物質管理が実施されていました。環境リスクについてはリスク評価を含め、管理の体制や規定がしっかりとしているだけでなく、確実に実施されていることが確認できました。新規取扱物質については、管理規定が定められており、実際に運用されていました。法規制物質以外の物質を含め、他社との比較、実測、シミュレーションなどによりリスク評価が実施されていました。また対策もリスク評価に基づいて実施されており、総合的な化学物質管理がなされていることが評価されました。

リスクコミュニケーションについて

双方向のコミュニケーションの必要性について認識されており、住民の声を取り上げた「にしき」を発行し、周辺住民にくまなく配布されていました。リスクコミュニケーションは、継続性を大切にされており、また双方向を重視した独自の工夫がなされていました。住民の意見反映にも努めておられ、アンケートの結果を次回の会議に反映したり、回答は責任を持った人が行うようにされていました。また基準値超過のダイオキシン排出なども、原因、対策をニューズレターや説明会で詳細に説明しており、地域住民の信頼が得られるよう努められていることが高く評価されました。

今後このコミュニケーションをさらに双方向になるよう工夫されることを望みます。

第3回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

セイコーエプソン株式会社 諏訪南事業所 「PRTR優秀賞」 受賞理由

化学物質管理について

全社の化学物質管理基準に加え、事業所独自の「事業所化学物質管理基準」の作成を試みている点や、独自のハザード評価を実施し化学物質管理に役立てている点が高く評価されました。また、新規化学物質採用プロセスが明確であり、有効に機能していること、従業員教育が徹底されていること、化学物質管理システムが有効活用されていることも、化学物質管理全体を底上げしている要素と判断しました。

化学物質管理が防災を中心に考えられており、事業所周辺の環境影響評価が必ずしも明確に位置付けられ実践されているわけではない点が今後の課題と考えられます。

リスクコミュニケーションについて

自発的なリスクコミュニケーションを毎年継続している点が高く評価されました。また、参加希望に対してオープンであること、地域の学校とオンラインコミュニケーションを試みるなど、工夫を凝らした取り組みがなされている点も評価に値します。

今後は、コミュニケーションの場への一般市民の方の参加を増やす工夫が望まれます。

第3回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

日産ディーゼル工業株式会社 本社・上尾工場「PRTR優秀賞」 受賞理由

化学物質管理について

約1年前に設立された環境・エネルギーグループを中心に化学物質管理の体制を整えつつあり、PRTR管理システムを活用して化学物質管理を行っています。排水濃度や大気・騒音などの実測を行い、1物質ではありますがMETI-LISを用いてリスク評価を実施・公表している点が評価されました。

しかしながら、化学物質管理は労働安全に主眼が置かれており環境リスクの考え方が希薄なこと、濃度予測の結果などを解釈して環境リスク管理に活用することなどが今後の改善点と考えられます。

リスクコミュニケーションについて

ファシリテーターや化学物質アドバイザーを活用し、また多くの市民の参加を得た、充実したリスクコミュニケーションを実践しています。また、地域との協働も30年の長きにわたり継続されている点が評価されました。

リスクコミュニケーションが、事業所独自の主体的な取り組みとして、継続されることが期待されます。

第3回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

藤倉ゴム工業株式会社 岩槻工場 「PRTR優秀賞」 受賞理由

化学物質管理について

社長直属の環境安全室が、各工場長からなる環境安全委員会の下で即応的な体制で化学物質の管理、削減に取り組み、年2回実施される内部監査が有効に機能している点、また化学物質の削減に対して、業界に先駆けて積極的に取り組んでいる点が評価されました。

一方、化学物質管理規定が施行されて間もないことから、こうした取組や意識が従業員全体で共有されるような体制を確立することが今後の課題と考えられます。

リスクコミュニケーションについて

2006年度に、県主催と事業所主催の2回のリスクコミュニケーションを開催し、資料として削減計画と連動した化学物質のシミュレーション結果や実測値を提供するなど、積極的にリスクコミュニケーションに取り組まれたことが、他の事業所のモデルになるものとして評価されました。

一方、コミュニケーションの実施面で、対話対象が限られているのではないか等の疑問があり、今後は、工業団地全体でこのような取り組みを推進していきたいという意向を実践に移すとともに、より開かれた永続的なコミュニケーションが推進されることを期待しています。

第3回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

富士フイルム株式会社 富士宮工場 「PRTR優秀賞」 受賞理由

化学物質管理について

化学物質リスク管理規定により、リスクに基づく管理を推進され、独自のリスク評価手法を開発しリスク評価の手順も明確にされていました。また組織を環境マネジメントマニュアルで明確にされています。

新規採用化学物質について、環境影響評価の規定があり、情報が無い場合は、自社で安全性評価を実施するなど積極的に対応されていたことが評価されました。

特に排水に対して汚染をしないよう対策が取られていました。

ただし、製品安全と労働安全に力点を置いておられ、環境リスクに関する対策が弱いように感じられました。

リスクコミュニケーションについて

地域住民とのコミュニケーションの重要性を認識され、古くからサイトレポートを発行し地域住民に配布されるなど、コミュニケーションに努めておられることが評価されました。特に2006年2月に、自主的にリスクコミュニケーションを実施し、県、市の協力を得てオープンなリスクコミュニケーションを実施されました。

今後双方向のコミュニケーションとなるよう工夫され、継続されることを望みます。

第3回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

今仙電機製作所 名古屋工場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

化学物質管理について

組織的な化学物質管理体制が整備されており、規定や手順書に即した管理が行われていました。新規化学物質使用時においては、有害性や取り扱い方法等を検討する仕組みがあり、また化学物質の使用状況についてもデータベースで把握されていました。一方、化学物質のリスク管理については、労働安全に主眼が置かれており、環境リスクの評価はされていませんでした。今後は環境リスクにも配慮した管理に向けたPRTRの活用を期待します。

リスクコミュニケーションについて

コミュニケーションについては、これまでの実績では苦情処理のみに留まっており、地域との対話は行われていません。また、環境報告書の作成も現在計画中とのことです。コミュニケーション体制の整備とともに情報公開の推進も期待されます。今後、地域に根ざした市民との交流の場を積極的に設けてられることを奨励いたします。

第3回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

大日本インキ化学工業株式会社 埼玉工場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

化学物質管理について

レスポンシブルケアに則る管理であり、環境目的・目標、体制が明確なこと、従業員教育が徹底していることなどが確認できました。また、独自の調査結果を反映してPRTR情報の算定方法の見直しをされた点は評価に値します。

一方、リスク管理の考え方やリスク評価の実施状況などについて、資料から確認できませんでした。

リスクコミュニケーションについて

インターン制度や工場内のお祭りに住民参加を募るなどの地域との協働に積極的な姿勢を確認できました。また、今後のリスクコミュニケーションの取組みにおいて、行政を加えた形式を希望されている点などは意欲的なものと評価できます。

コミュニケーションの体制や実践に関する詳細な内容については、資料から確認することができませんでした。

第3回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

東陶機器株式会社 小倉第一工場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

化学物質管理について

化学物質管理規定に基づき、化学物質の有害性の程度に応じて使用禁止、使用制限、削減対象、排出抑制などのランクに応じて管理されている点や全社の排出量削減目標を設定して削減に努められている点を評価します。また、グループ全体で化学製品のMSDSを共有できるように本社が一括して情報を管理し、工場ではこの仕組みを利用して化学物質の排出量・移動量の算定を行っている等の取組も見られました。

しかしながら、化学物質管理が法規制等のハザード情報に基づいており、環境リスクに配慮した取組について資料から確認することができませんでした。

リスクコミュニケーションについて

貴社内で初めて「環境ステークホルダーダイアログ」を開催して、環境への取組をテーマに地域の方々と対話を展開された点を高く評価します。

今後は、事業所独自の取組として積極的に地域に情報を提供し、ステークホルダーダイアログを継続してより多くの地域の方々と交流を深めていただくとともに、グループ企業も含めたより多くの事業所に展開されることを期待します。

第3回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

パナホーム株式会社工場 静岡工場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

化学物質管理について

グループ全体で掲げる地球環境憲章から事業所独自の計画を設定・進捗管理をしていること、PRTR対象物質の削減計画に対して、前倒しに目標を達成されることなどが高く評価されました。

一方、化学物質管理は労働安全に主眼が置かれておりリスクの考え方が希薄なこと、同一業界や地域における排出状況を客観的に評価すること、リスク管理に関して取り扱う化学物質のシミュレーション等の解析を行うことなどが今後の改善点と考えられます。

リスクコミュニケーションについて

周辺自治体の清掃作業へ積極的に参加されていることは理解できました。

しかし、化学物質管理に比べリスクコミュニケーションについての会社の取組姿勢が明確でないように感じられました。また、PRTRデータに基づいたリスクコミュニケーションが実施されていないように思います。

今後、工場見学や市民祭りなどの機会を利用し、化学物質によるリスクにも振れたコミュニケーションを推進されることを要望します。

第3回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

松下エコシステムズ株式会社 春日井工場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

化学物質管理について

松下電器グループの基本方針に基づき化学物質管理体制が整備されており、生産過程における購入、使用、製品の各段階において組織化された細やかな管理が運用されていることを高く評価します。一方、PRTR情報についてはごく一般的な把握に留まり、これに基づく解析やリスク管理への活用等はみられませんでした。

リスクコミュニケーションについて

環境経営報告書やサイトレポートで化学物質に関する情報を提供しているものの、春日井工場独自の積極的な工夫はみられませんでした。外部情報の処理や関連部門への伝達等、内部の体制整備について努力されているので、今後はより实际的に地域住民との交流の場を儲け、コミュニケーションを図ることを期待します。
